

北 海道コンサドーレ札幌のクラブチーム「コンサドーレ釧路（以下、コンサ釧路）」。ここには、プロのサッカー選手になることを夢見る人たちが集まっている。毎年、セレクションが行われ、そこで選ばれた者のみが所属できる。白糠中学校3年の石澤凰雅さんは、小学6年のころにセレクションを受けて合格。中学3年間を「コンサ釧路」のチームで過ごした。石澤さんがサッカーと出会ったのは小学2年のころ。仲のいい友だちと学校の休み時間にサッカーをやったのがきっかけだ。

「両親がバレーボールをやっていたこともあって、3歳くらいからバレーボールを触っていたのですが、サッカーで遊んでいるうちに、サッカーに興味を持ちました」

石澤さんはフィールドプレーヤーではなく、ゴールキーパー（以下、GK）。サッカーで唯一手を使うポジションを選んだのは、幼いころからボールを触っていたことが影響しているのかもしれない。「GKは、ただゴールを守るだけでなく、プレーヤー全員を見渡せるので、仲間に指示を出すのも重要な役割です。自分は身長が低い

ので、中学1年のころは、練習にも参加させてもらえず、雑用をしていたこともありました。身長が低いのであれば、それを補うだけの武器が必要です。キャッチング技術やキック力、瞬時に的確な指示を出すコーチングが自分の武器だと思います」

徐々に結果を出し、中学2年でコンサ釧路の正GKとなった。そして、中学3年のころには主将を務めた。

「自分のことだけで精一杯だったんですが、主将を務めることになってからは、自分の周りにいる人たちのことを考えるようになりました。頻りに声をかけたり、メールをしたりして、積極的にコミュニケーションをとるようにしました。その積み重ねで、チームメイトとの信頼関係を築くことができたと思います」

中学3年の最後の大会では、全道3位という好成績を残した。

「コンサ釧路の歴史の中で過去最高の成績を残すことができたのは、本当にうれしかったです。いろいろな個性を持った仲間たちと、高いレベルでサッカーができたことは、とても楽しかったし、いい経験になりました。この環境を与えてくれた両親には、一言では感謝しきれません。自分を支えてくれる多くの人たちのおかげで今の自分があるので、皆さんに感謝しながら、これからも頑張っていきたいです」

石澤さんの理念は「文武両道」。サッカーと勉強が両立できる、より良い環境を求めて、中学校卒業後は、道内の私立高校へ進学する予定だ。現状に満足することなく、さらなる高みを目指して、石澤さんは新天地で新たな挑戦を始める。

石澤凰雅

いしざわ おうが

2005年11月23日生まれ。白糠中学校3年生。小学2年の2月に町内小学校のサッカーチームに入る。5年生で釧路のドリームFCへ移籍。中学1年でコンサドーレ釧路に所属する。趣味はゲームをすること。



「高いレベルでサッカーができたことは、いい経験です」



ゴール前が最も激しい攻防となるサッカー。前に飛び出す瞬発力もGKには必要な能力です。